

雅楽だより

《目次》

- パイプオルガンと笙
- 天理教と雅楽(1)
- 笙の和音的解説 下(4)

佐藤浩司 1
芝 祐泰 6

- コロンビア大学MPプログラム
- 情報欄

山本卓子 9
9

第55号
発行

2018(平成30)年10月
雅楽協議会



写真1 マナ オルゲルバウ
オルゲルバウマイスターの
松崎譲二氏

写真2
パイプオルガンを客席から見ると、写真2
のように金属のパイプが整然と並んでいるの
一本のパイプから一つの音
た。8月には奏楽堂に運び込むとのことです。

東京音楽学校奏楽堂のパイプオルガン(写真
2)(（注）P5参照)を1987年に修復し、
30年後の現在2018年も再びこのパイプオ
ルガンを修復中で、お伺いした7月には、奏
楽堂のパイプが所せましと並べられていまし
た。

お伺いした「マナ オルゲルバウ」は、旧
東京音楽学校奏楽堂のパイプオルガン(写真
2)(（注）P5参照)を1987年に修復し、
30年後の現在2018年も再びこのパイプオ
ルガンを修復中で、お伺いした7月には、奏
楽堂のパイプが所せましと並べられていまし
た。

パイプオルガンと笙 マナ オルゲルバウを訪ねて

がわかります。このパイプ一本一本からそ
れ一つの音が出ます。逆に言えば、1本の
パイプで一つの音しか出せないのがパイプオ
ルガン。一オクターブの音を出すには12本の
パイプが必要となり、写真の奏楽堂のパイプ
オルガンでも1379本のパイプが立てられ
ていて、ほとんどのパイプは裏側に置かれ
ていて客席からは見えません。

千本以上のパイプが必要な訳は、ピアノと
同じく88鍵の音を出すにはそれだけで88本の



写真2 お伺いしたマナ オルゲルバウが修復した
旧東京音楽学校奏楽堂のパイプオルガン

天理教と雅楽(1)

天理大学名誉教授

雅楽部総監督 佐藤浩司

天理教では、明治時代の宗教政策により、

天理教が制度上神道の枠内に組み入れられ、
関わりをもつて至つて、神道形式の祭儀を行
うようになるとともに、その典礼の音楽であ
る雅楽も、用いるようになった。

天理教の儀式の中に雅楽が初めて取り入れ
られたのは、1887(明治20)年2月23日
(陰曆2月1日)の、教祖の葬祭のときと言
われているがさだかではない。

翌明治21年の教祖1年祭のときには、
春日の伶人竹内昭方と、竹内より雅楽を習
った6名の天元組(奈良大教会の前身)の人
が勤めた。

(8ページ2段へ続く)



佐藤浩司氏

(1ページ下段より)

は88×20で1760本のパイプが必要となります。

パイプの形状などにより、フルートやオーボエ、トランペットのような管楽器の音、弦の柔らかな音、歌うような優しい音、体に響く重低音まであり、音色の異なる音を出せるので豊かな音色を求めるときだけパイプは増えていきます。それを両手と両足の鍵盤やボタンをフルに使って、それらの音を組み合わせて音色を変え、かつ和音を奏で、強弱を自在に変えて響かせる。そこからパイプオルガンは楽器の王様とも呼ばれています。

パイプの種類

材質と発音原理の違い

パイプオルガンは多様な音色をだすため、発音原理の違いとして、フルー管と称するリコーダーと同じ原理で音を出すパイプと、リード管と称するリードの振動で音を出すパイプとの2通りがあります。さらにパイプの材質や形状を変えて音色を変える方法もあります。

フルー管の 音が出る仕組み

まず、パイプオルガンの目に見える所に立てられているフルー管に注目。写真3は、山崎氏が管を逆さまにして息を吹き入れているところです。私も吹かせていただきました。弱い息でもパイプオルガンのきれいな音がします。子どもの頃に吹いたりコーダーと同じ原理で音を出します。

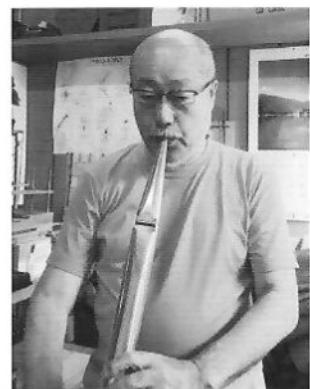


写真3 パイプを逆さまに加えて音を出す松崎氏



写真4 左から開管、閉管、半閉管のフルーパイプ。3本とも音程は同じ

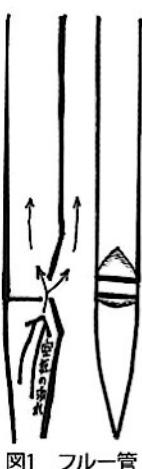


図1 フルー管

ですからこのフルー管は、ちょうど縦笛(リコーダー)の上下を倒立させて、奏者の息の代わりに下から「風」を吹き入れ、指穴で管の長さを変える代わりに、予めいろいろな長さの管をたくさんそろえておいたものです。このフルー管の内部は、(図1)のようになっています。下からの空気は衝立によって細い帯状の流れに変えられ、エッジの部分で左右に空気が分かれ、空気の振動を起こし音が出ます。

木製のパイプは、断面が四角い箱のようになります。下からの空気は衝立によって細い帯状の流れに変えられ、エッジの部分で左右に空気が分かれ、空気の振動を起こし音が出ます。

パイプの金属は錫と鉛の合金で出来ていて、この錫と鉛の配合を変えると音色が変わり、錫70%、鉛30%だと良く響くパイプオルガンらしい音色で、鉛の配合を増やしていくと柔らかい音になるそうです。

この金属のパイプの他に木製のパイプ(写真5)もあります。

木製のパイプは、断面が四角い箱のようになります。下からの空気は衝立によって細い帯状の流れに変えられ、エッジの部分で左右に空気が分かれ、空気の振動を起こし音が出ます。

このような材質の変化の他に、パイプの形状の変化でも音色が変えられます。

パイプの先端を開けたままの開管。先端をふさいだ閉管。先端を半分塞いだ半閉管。それぞれに音色が異なります(写真4)。

ですから金属のパイプと木製のパイプの違い、さらに金属でもその配合の違い、さらにそれぞれに開管、閉管、半閉管ができる、いろいろな音色を求めて試行錯誤の中で創られたものと思えます。

音程の調整

フルー管は、パイプの長さを調整することで音程を調整します。短くすると音は高くなり、長くすると音は低くなります。

写真6は、パイプの長さの



写真6 開管の先端を加工して調律をしやすくするフルー管のパイプ

パイプオルガンの前面に並んで見える沢山のパイプは逆立ちした縦笛(リコーダー)といえます。下の方の細くなっているところから空気が送られます。

音色の変化

パイプの材質と形状で

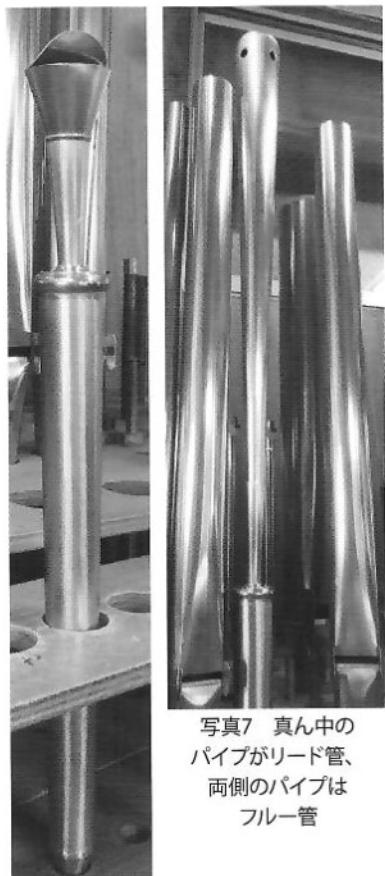
中世まではフルー管のみでパイプオルガンは作られていたのだと。それに対してリード管は力強い音色をだすので、メロディーの演奏に適し力強い演奏も行えるので、中世以後リードを使用したパイプが使われるようになりましたとのこと。

リード管 主にメロディーを

中世からリード管も加わる



写真5 木製のフルー管 旧東京音楽学校奏楽堂のパイプ

写真8
リード管

リード管の構造では、そのリード管はどのようになっているのか。写真7、8はリード管の外観です。リード管のパイプの形状は多様にいろいろな形があります。

写真9は、パイプの下方（空気が送りこまれるところ）のリード部分を覆つている筒の部分を外し、リードが見える状態にしたもののです。

リードの形は写真10（写真9、10、11、12、13参照）でわかる様に細長い台形をしています。長さは音程により、8mmから1cm程度の間、厚さは0.7mmから0.9mm程度、材質は真鍮で、イギリス、ドイツなど国によって形や材質などが異なり、それぞれに特徴があるとのこと。リードを載せる台の深さや形状も音質に影響があるそうです。

リードに反りを付ける

リードには必ず反りを付けます。反りを付ければないと空気が流れずリードが振動しないので音が出ません。反りの付け具合は、リード



写真9 リード管のカバーを外し、リードの部分が見える。リードの長さで音程が異なる。縦になっているのを横に置いて撮影。右(下)からパイプに空気が送られる。

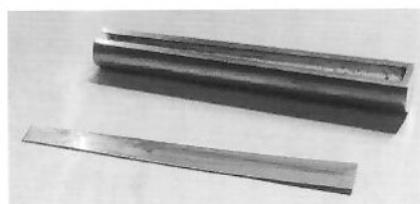


写真10 リード管のリードとリード受け。リードに反りが付いているのが分かる。



写真11 リードには必ず反りを付ける

写真12 リード部分を分解した写真
右上 リード受け、右中 リード、下 模型小片

管の鳴り具合に直結します。写真11は松崎さんがリードに反りを付ける作業をしているところ。堅い木の上にリードを置いて、丸みの付いたヘラでリードをこそいで反りを付けます。

写真12はリードを本体から外したところです。リードとリードを乗せる部分（リード受け）は、模型の部品（写真12 中央下の模型の小片）を引き抜くことで簡単に取り外しが出来るようになっています。

簡単に取り外せるリード

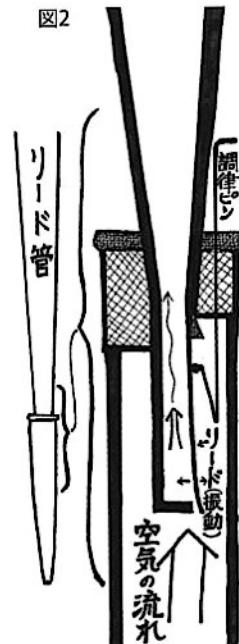
写真12はリードを本体から外したところで空気は下から送られてきて、空気の圧力で反りの付いたリードは押されます。押されたりードは、リードの反りの反発力で元に戻らうとします。元に戻ると再び空気に押されるの

でリードは再び閉じようとします。リードの反りによって再び元に戻ろうとしてリードは振動。このリードの振動が音になります。リードの振動は、このリードに付けられた反りの具合によって鳴り易かつたり、鳴りにくかつたりします。

発音原理

リード管から音が出るのは、図2で示すと、リードは、リードの反りの反発力で元に戻らうとします。元に戻ると再び空気に押されるの

でリードの上に折り曲げられたピン（図2、調律ピン）が載せられていて、リードを押さえています（写真13）。ピンはUターンして本体の細い穴を通り外に続く。外からこのピンを動かすことができ、連動してリードの上のピンも動くので、リードの振動する長さを変更できます。リードの振動部分を長くすると音程は低くなり、短くすると音程は高くなります。



リードの音程調整で音程を変えることが出来ることで音程を変えることが出来る

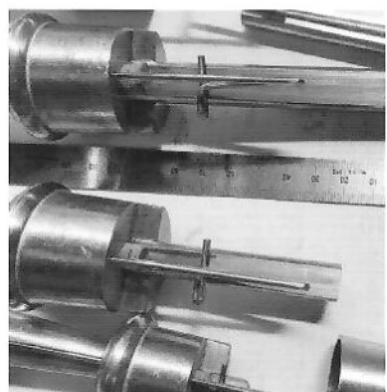


写真14 リード部分



写真13 リードの上のピンを動かして音程を調整する

ので、笙の音程の調整の作業と比べると格段にやりやすいわけです。

音色の違い

リード管も、共鳴部分のパイプの形状など、の違いでトランペット、オーボエ、ドルチア、フォクス、レガールなどに似たいろいろな音色をだすことが分かつて、その音色を聞いて、似た音色の楽器の名前を付けたのだそうです。

力強くメロディーを奏する

リード管

リード管は、力強い音も出せるのでメロディーを吹くのに使用されることが多いのが特徴だそうです。

フルートのパイプ独特のやわらかい音色の中から、リード管の力強いオーボエやトランペットのような音色は、メロディーを奏する時に多く奏されること。

ここでパイプオルガンのリードと笙のリードの違いを見ておきたい。

パイプオルガンのリードは、前掲のように一枚の金属の板をそのままリードとして使用し、リードには反りを付けます（写真10、11、12）。以前取材したハーモニカのリードも、反り（あげみ）を付けるので、この点では同じです（「雅楽だより」48号）。

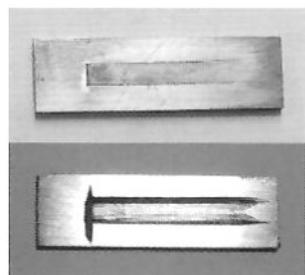
そして、ふいごやモーターなど空気を送る道具を使用して空気をパイプに送り出しているので、一方向の空気の流れでしか音を出すことが出来ません。当たり前のことですが、空気を逆に流すと音は出ないのです。

このような発音原理で音を出すのは、クラリネット、サックスなども同じようです。

笙のリードの特徴

反りを付けない

では、ここでパイプオルガンのリードと比較するために、笙のリードを簡単に見ておきます。笙のリードは、一枚のリードをコの字型に切込みを入れ、中の部分を振動するように削り込んで、吹いても吸っても同じ音程の音が出るように調整します（写真15）。一枚のリードを吹いても吸つても同じ音程の音が鳴るというが、笙のリードの最大の特徴でしょう。ハーモニカのリードは、吹いて鳴るリードと吸つて鳴るリードは別のリードです。（「雅楽だより」45号参照）

写真15 笙のリード
(上)は表 コの字型に切込みがあり、反りは付けない
(下)は裏 薄く削り込む

笙はなぜ両方向の空気の流れで音が出るかと言うと、リードの振動数と竹の長さ（竹の裏に空けてある屏上までの長さとその空気の質量）を共鳴するようにしてるので音が出来るようになっています（図3）。竹の長さを変えると鳴らなくなります。この発音原理を三千年前の人が生み出したことに驚きます。

笙の発音原理

笙とは全く異なる発音原理

一方パイプオルガンの共鳴管は、あくまでも音色を変えるための装置で、長さを変えても音は出ます。

リード管もリードを使用している点では笙と似ていますが、リードの形状も発音原理も笙とは全く異なつたものである事が分かりました。

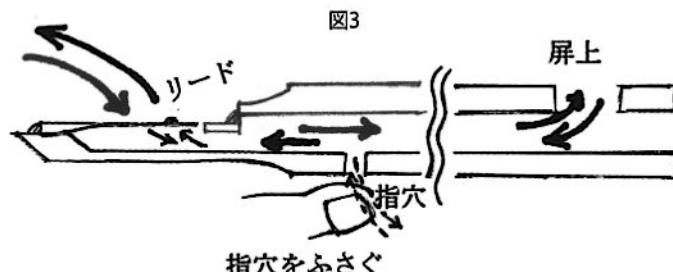


図3 笙は息を吹き込んで、吸い込んでも鳴る。リードは竹の屏上までの長さで共鳴するように削ってある。音程によって、リードの削り具合と竹の屏上までの長さを変える。

またパイプオルガンのリードは反りを付けないと鳴りませんが、笙のリードは反りを付けるばかりでなく、空鳴り（鳴らすつもりが無いのに鳴ってしまう）の原因となり反り直さないといけないです。これはパイプオルガンやハーモニカとは全く違う発音原理を有しているからです。

パイプオルガンと笙

パイプが建てられて音色も似ている点で、類似点と相違点について考えてみましょう。まず似ている点から挙げてみると、次に楽器としてのパイプオルガンと笙を比べて、類似点と相違点について考えてみましょう。

そしてパイプから生じる和音は、共に厳かな中に人を包み込む優しい音色です。笙は「天音」といっても両楽器共パイプを使用している点でしょう。

笙は息を吹き込んで、吸い込んでも鳴る。リードは竹の屏上までの長さで共鳴するように削ってある。音程によって、リードの削り具合と竹の屏上までの長さを変える。



写真16 膝の上に乗せて演奏するパイプオルガン。左手でふいごを動かし右手で鍵盤を操作し演奏する。パイプは20数本立てられている。

写真提供 松崎氏

から差し込む光」とも例えられます。宗教的儀式でも多く使用される点もとてもよく似ています。以上がパイプオルガンと笙は似ていて云われる所以ではないかと思います。

どちらも紀元前からの歴史を有する

更に、どちらも2千年以上の歴史を持つとても歴史のある楽器で、パイプオルガンは紀元前3世紀の時代、アレキサンドリアにて水力でパイプに空気を送る構造のパイプオルガンが作られたといわれています。紀元後になると、ふいごでパイプに空気を送る形へと進化していき、現在はモーターで空気を送る構造になりました。

笙は3千年前に生まれ、日本には奈良時代に伝えられました。どちらも楽器としては2千年以上の古い歴史を持つています。

空気を道具を使用して送る

リードや発音原理については前述したのでもしょう。

パイプオルガンは、空気を送るのにふいご、又はモーターを使用するなど、空気を送るための道具を必要とします。しかし笙は演奏するのに直接身体の呼吸を使い、特別な道具を使用することはありません。

「手で持ち運べる笙

パイプオルガンは一般に備え付けの楽器である事が特徴で、パイプの数が千本を超えるのが普通です。(例外で写真16。手で持ち運べる小型のパイプオルガンも作られました。)

それに対して笙は、手で持ち運べます。この他にもパイプオルガンと笙の比較いろいろな点を挙げることは出来ると思いますが、主な点はこれらではないかと思います。

今回の取材も多くのこと学ぶことが出来ました。ありがとうございました。

「マナオルゲルバウ」の皆様始め関係の方々にお礼申し上げます。(鈴木治夫)

(注) 旧東京音楽学校の笙とパイプオルガン

東京芸術大学の前身の旧東京音楽学校は1887(明治20)年、文部省の音楽取調掛

を継承して本郷で誕生し、3年後の明治23年5月、上野公園(現東京芸術大学音楽学部)に奏楽堂を含む校舎が新築され開校した。校舎は、中央の2階部分に奏楽堂があり、両翼に教室棟を從えるようにそびえていた。現在の旧東京音楽学校奏楽堂である。この奏楽堂は滝廉太郎がピアノを弾き、山田耕作が歌曲1379本、わが国最初の本格的コンサート用パイプオルガンである。

戦後、東京音楽学校は、1949(昭和24)年5月、「東京音楽学校」と「東京美術学校」とが統合され、東京芸術大学となつた。奏楽堂のある東京音楽学校の校舎はそのまま使用されていたが、1972(昭和47)年、大学

を歌い、三浦環がオペラを演じた舞台であり、日本でもっとも古い木造建築のコンサートホール(現在の旧奏楽堂は中央2階部分と左右の教室の一部のみ)である。

笙とハープと楽太鼓

この奏楽堂正面の大屋根には、東洋と西洋の調和を象徴とした「笙」と「ハープ(豊琴)」、そして中央には「楽太鼓」が配された

バロック様式の切妻飾りがある。東京音楽学校では、雅楽の教科は無かつたはずだが、正面入り口には雅楽にまつわるデザインがなされている。なぜここに笙と楽太鼓の彫刻を飾ったのか、その理由を調べたが詳細はわからなかつた。ただ設立にあたつては雅楽関係者も関わっており、関係があるのかもしれない。

いずれにせよ雅楽の楽器が正面玄関を飾るにふさわしいと認識させていたことに変わりはないだろう。

パイプオルガン

1928(昭和3)年、この奏楽堂に、紀州徳川家の頼貞侯によつて寄贈されたパイプオルガンが備え付けられた。

このパイプオルガンは1920(大正9)年に徳川頼貞侯がイギリスのアボット・スミス社より輸入したもので、パイプ総数1379本、わが国最初の本格的コンサート用パイプオルガンである。



旧東京音楽学校奏楽堂の正面玄関にある笙と楽太鼓、豊琴(ハープ)の彫刻。現在も上野の森に残されている。

は新ホール(現東京芸術大学奏楽堂)を建てるため、ホールを解体し愛知県犬山市の明治村に移築することを決めた。

これに対し、作曲家の黛敏郎、芥川也寸志らが、大学構内保存運動を起こし、粘り強く活動を続けた。

「建築や都市は人と土地との営みの証で、建築は単に建つてゐるのではなく、人がそこで暮らし活動し、土地の歴史を築いている。それが消え去つたら、その歴史も消え去ります。「奏楽堂は楽器」であり、明治村に移つたのでは奏楽堂は上野の歴史を語ることが出来ません。音の出せない奏楽堂はもはや奏楽堂ではありません。土地の歴史が語れること、それが土地の誇りを惹きだし、町づくりの力になる。都市の歴史的文化遺産の現地保存はそうした意味で大切なのです。」と芸大OB

や建築家、地元市民が熱心に保存運動をし募金活動を展開した。

こうした活動が実り、大学が愛知県への移築を決めてから10年後の1982（昭和57）年、地元の台東区が上野公園内に移築保存することで落着した。そして1987（昭和62）年、芸大敷地の隣に旧奏楽堂として復元、開館した。翌1988（昭和63）年、旧東京音楽学校奏楽堂（上野奏楽堂）は国の重要文化財に指定された。

1984（昭和59）年、移築の工事が着工すると「本来の復元にはパイプオルガンの復元も必要だ」という声が関係者の中から挙がった。しかし、1955（昭和30年代）年頃より、パイプオルガンの不具合により芸大はパイプオルガンの使用を停止していたこともあり、台東区へ譲渡話が来たとき、パイプオルガンの再生の話は入っておらず、再生のための予算は組み込まれていなかつた。しかし1985（昭和60）年にオルガン演奏家、建築家、市民など2000人を越える人々で「奏楽堂のパイプオルガンをよみがえらせる会」が結成され、募金活動をして台東区のオルガン修復事業に協力し、パイプオルガンの修復も行われた。

この時パイプオルガンを修復したのが、今回パイプオルガンの取材をさせて頂いた「マナオルゲルbau」である。旧奏楽堂の開館（1987年）と同時にパイプオルガンの修復を終えている。

移築して25年が経ち、設備の老朽化による耐震工事など建物の保存活用の工事と、パイ

オルガンの修復のため、2013（平成25）年4月から、休館になっていたが、今年2018年11月2日より再開される。

この奏楽堂がパイプオルガンと共に上野公園内の芸大の隣りに、建設当初と変わりなく一般に公開される形で保存されていることは、多くの人たちの働きかけや思いがあつてこそだったことを今回初めて知りました。

ト生の和音的解説 下

著者　祐泰

律和音系統調律 第一段

下(4)



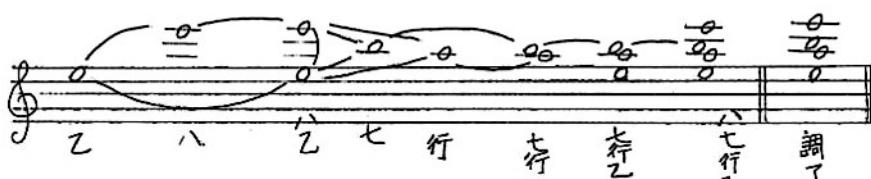
先ず「乙」管に平調音(E)を宮(根音)として合わせ、その甲音「八」を完。全に調律する。この甲乙宮音は笙調律の根元である故、一毛一絲の誤差もない完全な一八音でなければならない。

万に一絲の差があれば進行する調律の過程に随つて、次第に協和上の破たんが生じて來るのである。調了した「乙、八」を規準として、「乙」より順六律、「八」より逆六律の「七」を調律する。次いで「乙」より順六律、「八」より逆八律の「行」を調律し、この「七、行」二音の協和や「乙」を加えて律和音としての協和、更に「八」を加えて律和音四声の協和を調べるのである。(譜面1)

律和音系統 第一段

(譜面1)

律和音系統調律 第一段



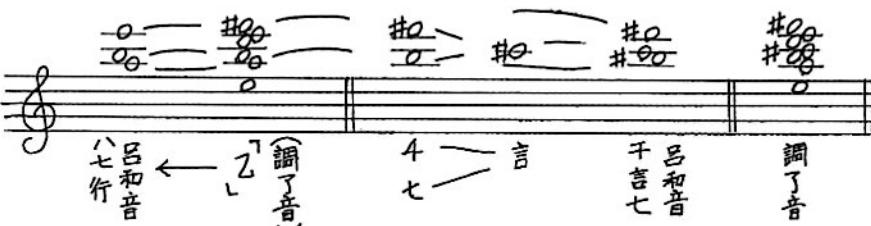
(譜面2)

律和音系統調律 第二段



(譜面3)

呂和音系統調律 第一段



律を求めるに「七」には「千、八」、「行」には「八、上」の律が当たつて来る。

共通に出てくる「八」は調律完了しているので「千」と「上」を調律すれば終るのであるが、即に完了した「八、七、行、乙」のいすれにも協和して、幽玄の響きを発する「千・上」を調律することは、なかなかに困難な事である。(譜面2)

先ず第一段に調了した「行」より順六律に

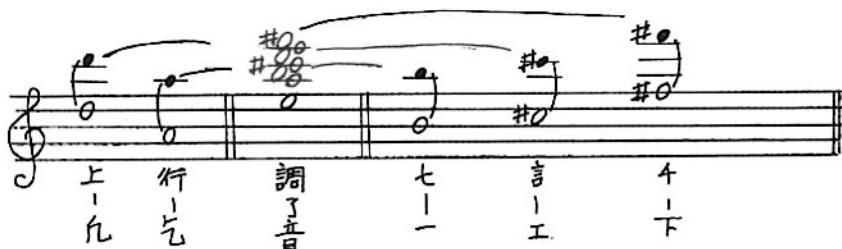
調律を求めるに「七」には「千、八」、「行」には「八、上」を調べ、之に「八、行」を加えて五声（八上七行乙）の協和を調べる。次に第一段にて調了した「七」より順八律に商「千」を調べ、之に「八、七」を加えて律和音の協和を調べる。斯く調了した上これを結合すると「乙」相竹（和声）となるのである。

呂和音系統調律 第一段

次に調了した「七、行」に「八」を添えて

(譜面4)

甲乙関係の調律



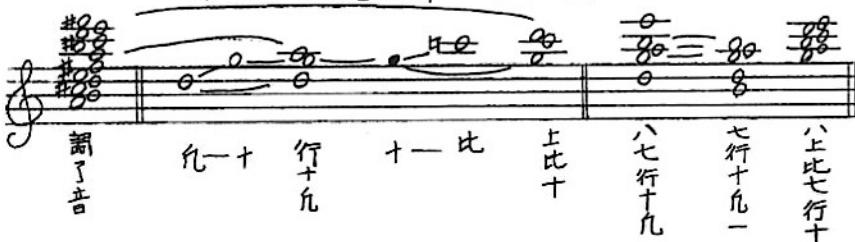
(譜面5)

呂和音調律 第二段



(譜面6)

律和音系統調律 第三段 (其ノ一)



(譜面7)

同 第三段 (其ノ二)



以上、笙の調律は、理によつて生ずる律を、人耳によつて理外の協和律に調整したものである。笙調律の事は、音律算定の理に通じ特殊な協和律をも感じ得る人の特技である。何分調律者の耳、即ち微妙な音感の運用によつて行われるものであるから、調了後「乙」の和声は満足な協和をするが、「一」、「乞」などの和声が不満足な響きを発する場合もよく耳にするところで、「調笙の技」は笙演奏家の重要な研究事項である。

吹奏すると「行」音上の呂和音の響きである。これ等は既に精密調整を終えた律であるので完全に協和するのである。

次に調了した「七、千」の両律を規準にして「言」(上無 C♯)を調べる。「七」管上の呂和音の響きである。(譜面3)

譜面3の第二節は「千」(B♭)より逆六律に「言」(C♯)を調べ、「七」(H)を加え、呂和音の響きに用いて調整するのである。以上

によつて「ニ、行、七、言、上、八、千」の七律が調了される。

甲乙の関係の調律

次に「上一九」、「行一乞」、「七一二」、「言一工」、「千一下」と甲乙関係の五律を調べる。(譜面4)

呂和音系統調律 第二段

譜面4の如く「九、乙、一、工、下」を調べ、之によつて「乞、一、九」三音上の呂和

音を精査する。

精密な甲乙音に移されて居れば皆協和するものである。この調整を行つて後、「七、行」

を添えたり更に可能な指法を用いて各様の和声を試みて精密調律をかさねる。(譜面5)

譜面5の如く調了した諸律を用いて、協和の粗密を精査する。

律和音系統調律 第三段 (其ノ一)

次に「九」に連繋を求めて、「十」と「比」を構成し「美」の律を調べる。「工」より順八律、「下」より順三律に当る。之も可能な指法によつて諸律との協和を調整する。(譜面7)

およそ(譜面7)の如く、次第に笙和声の型態を為す諸律間の調整を行うのである。

右呂律和音の連繋二系統を総合すると次の右呂律和音の連繋二系統を総合するとの次

(次ページ譜面8)如くである。

呂和音系統最後の和音は、笙の指法上呂和音の原型(言、美、下)は演奏不可能の為、其の外声(五度C♯)を一八音下げた転回型である。即ち「工」音上の律和音に見えるが、「工」は多声の転回されたもので根音は「下」(B♭)である。

の二律を調律する。順六律を追つたものである。

既に調了された律を添えて律和音の響きにより「十」、「比」を調整し、更に諸律を付加してその協和を調べる。(譜面6)

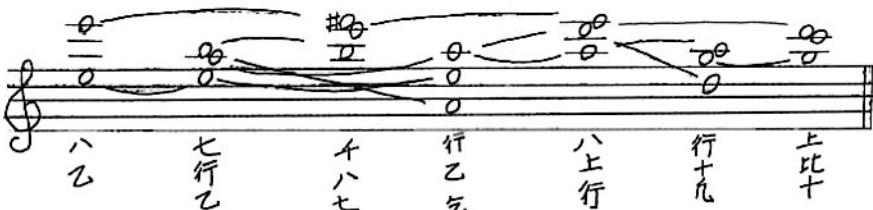
同 第三段 (其ノ二)

既に調了された律を添えて律和音の響きに

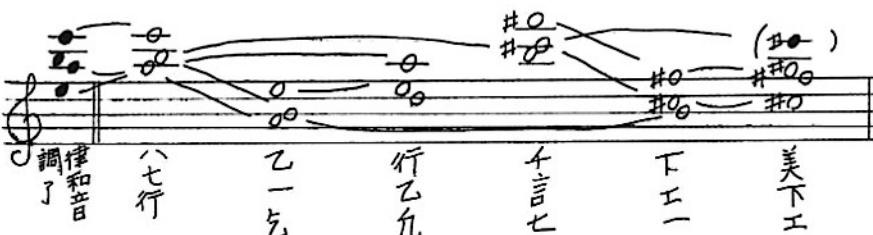
より「十」、「比」を調整し、更に諸律を付加してその協和を調べる。(譜面6)

(譜面8)

律和音系統連繋譜



呂和音系統連繋譜



(和33)年5月、47号1962(昭和37)年6月発行より許可を得て転載。一部旧仮名遣いを新仮名遣いに、旧字を新字に、五線譜に新たに番号を付け、その位置は隨時移動した。この原稿は「雅楽だより」47、49、51、53、54、55号に掲載した)

(小野雅楽会発行「雅楽界」46号1958(昭和33)年5月、47号1962(昭和37)年6月発行より許可を得て転載。一部旧仮名遣いを新仮名遣いに、旧字を新字に、五線譜に新たに番号を付け、その位置は隨時移動した。この原稿は「雅楽だより」47、49、51、53、54、55号に掲載した)

(1ページ「天理教と雅楽」より)

その後、天理教会本部假開筵式(明治21年4月)、天理教会本部開筵式(明治21年11月)、教祖5年祭(明治24年1月)、教祖墓地改葬(明治25年12月)、教祖10年祭(明治29年3月)と式典が勤められ奏楽されている。だが、これまでの奏楽の奉仕者は、春日や神道本局といつた、天理教外の人であつたり、天元組や郡山などの雅楽に心得のあるものであった。

天理教の一派独立運動は、天理教の雅楽に一大転機をもたらした。というのは、政府から「みかぐらうた」を廃止せよとの圧力がかかるた。初代真柱は苦慮し、折衝の結果、大和舞「神の御国」を取り入れることになったからである。この「神の御国」は、『二十一代集』の中から初代真柱が15首撰定し、これを宮内省に樂と舞の譜の制作を依頼してできたものである。大和舞は、4人の舞人が、歌と笏拍子、和琴、笛、簫篥の伴奏に合わせて舞うものである。明治39年1月末から2月初めには、本部より梶本宗太郎ほか6名が、時の宮内省樂部樂長であった芝葛鎮ほか宮内省の伶人に「神の御国」の指導を受け、同年2月18日に執行された教祖20年祭には、初

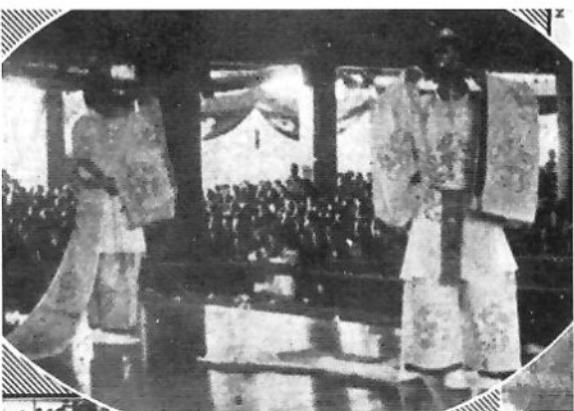
めて大和舞を奉仕している。

その後、この「神の御国」は1933(昭和8)年春、「かぐらづとめ」の復元とともに廃止となつた。部内教会では、祭典の奉仕としての雅楽はもちろんのこと、音楽としての雅楽にも興味を寄せ、1921(大正10)年頃にできた河原町大教会の雅韻会のように愛好者が会を組織するようになった。教会本部でも、大正12年2月には、河原町大教会より講師を招き、第1回の雅楽講習会を開催し、その最終日にあたる2月11日は、第1回雅楽演奏会を神殿を会場に開催している。

教祖40年祭へ向けての活動では、興隆してきた雅楽にも一段と拍車がかけられた。教会本部では、教祖年祭はもちろんのこと、月次祭、大祭、その他の祭典に奏楽され、その奉仕者が、天理教の雅楽の中心となつて指導にあたり、普及に努めた。

さて、教会本部雅楽部の体制が整い、教内の雅樂熱が高まる中、1928(昭和3)年、天理中等学校の設立とともに、課外クラブ活動として雅楽部が設けられ、これが現在天理高等学校求道部雅楽班となつていている。また、昭和5年には天理教校内によるもと会が組織され、この中に、舞楽部、管絃部が設けられた。これが現在天理教校専修科雅楽班となつている。

こうして雅楽の愛好者が増加すると、自主公演だけでなく合同の演奏会や発表会が開催されるようになつた。昭和5年より、從来は教会本部雅楽部だけで開催していた雅楽演奏会を、天理中等学校、天理教校と合同で行う



1924(大正13)年、ローマにおける万国布教博覧会に、「神の御国」を映像で展示したものより。

写真提供 佐藤浩司氏

ようになり、昭和16年1月25日には、天理時報社主催による第1回雅楽競演会が天理教館を会場に開催された。このときには、河原町雅韻会など7団体が合計17曲演奏して賑わいをみせ、同年10月には、天理教雅楽連盟主催の雅楽演奏会が、東講堂を舞台に開かれた。このときは、本部雅楽部や天理中等学校雅楽部の参加があり、さらに、当時、本部雅楽部の指導にあたつていた元宮内省樂師の大村恕三郎が簫篥の模範演奏をするなど、多彩な催しどとなつた。

ところが、太平洋戦争の勃発で、年々盛んとなつていった演奏会は聞かれなくなり、祭典や慰霊祭に奏楽する程度となつた。この影響は、戦後しばらくの間続いた。しかし教会本部では、樂器の購入、諸本の作製、講習会などなつた。

報社主催による第1回雅楽競演会が天理教館を会場に開催された。このときには、河原町雅韻会など7団体が合計17曲演奏して賑わいをみせ、同年10月には、天理教雅楽連盟主催の雅楽演奏会が、東講堂を舞台に開かれた。このときは、本部雅楽部や天理中等学校雅楽部の参加があり、さらに、当時、本部雅楽部の指導にあたつていた元宮内省樂師の大村恕三郎が簫篥の模範演奏をするなど、多彩な催しどとなつた。

の開催など、新たな雅楽の興隆を目指した。

(続く)

(編集部 より)

天理大学雅楽部の公演が4年ぶりに再開されます。

2019年2月25日 天理市民会館(奈良)

3月8日 新宿文化センター(東京)

演目 伎楽 獅子奮迅

管絃 黄鐘調 海青楽 越殿樂残樂三返

舞楽 散手 古鳥蘇

詳細は「雅楽だより」1月号に掲載

2018年度MPプログラムを終えて

「ロンビア大学雅楽・邦楽」

ディネーター 山本華子

2007年より始動したアメリカ・コロン

ビア大学MP(Mentor師匠/Pro

tégé弟子)プログラムが12年目を迎え、

本年5月28日から7月7日までの6週間行わ

れ、雅楽専攻(龍笛)のミゲル・マーティネ

ス1名が参加した。本プログラムは、本年50

周年を迎える中世日本研究所・日本文化戦略

研究所が毎年実施している雅楽・邦楽夏期研

修プログラムである。

研修内容は、例年と同じく個人レッスンを

中心に、グループレッスンへの参加であった。

その他、宮内庁楽部の見学などが含まれた。

プログラム終了直前の7月7日には、成果

発表として、東洋英和ランチコンサートを開

催。本年は雅楽の三管のうち龍笛専攻者のみ

が参加したため、東洋英和女学院で4月より

筆箋を学び始めた生徒2名と音楽教員の有泉
京子先生(笙担当)により合奏が実現した。



東洋英和ランチコンサート。プログラム参加者ミゲル(左)と東洋英和女学院の生徒及び音楽教員で「越天楽」合奏。

写真撮影:李爽、会場:東洋英和女学院講堂。

楽器紹介とともに『越天楽』の演奏を披露した。雅楽を始めたばかりの生徒も集中的・意欲的に学び、約3ヶ月で『越天楽』を演奏するに至った。その他、バッハ『G線上のアリア』を龍笛、ピアノ、鍵盤ハーモニカで合奏した。

毎年、研修内容を同じくして行うプログラムであるが、参加者の専攻、顔ぶれによって、成果もその年ごとの特徴を反映する。次年度はどのようなプログラムになるか、今から楽しみである。

沙沙貴神社近江源氏祭 (滋賀)

10月7日(日)午前10時半

曲目 納曾利 舞 女人舞楽原笙会

問合せ Tel 0797-23-1886

東京楽所 雅楽・源氏物語 (広島)

10月14日(日)午後3時

一般4千円 ペア7千円 高校生以下1千円

三原市芸術文化センター ボボロホール

野宮神社 斎宮行列 (京都)

10月19日(金)、20日(土)、21日(日)

三原市芸術文化センター ボボロホール

-9-

10月21日(日)午後2時	舞楽 蘭陵王(予定) 演奏 平安雅楽会	10月21日(日)午後2時	舞楽 蘭陵王(予定) 演奏 平安雅楽会
問合せ 075-491-0082	函館樂所第11回演奏会 (北海道)	問合せ 075-491-0082	函館樂所第11回演奏会 (北海道)
10月 予定 午後5時 無料	尻岸内八幡神社	10月 予定 午後5時 無料	尻岸内八幡神社
管絃 双調音取 春鶯囀 入破			
舞楽 陵王 その他 主催 函館樂所			
問合せ 0138-41-5467	10月22日(月)午後1時 無料	問合せ 0138-41-5467	10月22日(月)午後1時 無料
経供養 舞楽 四天王寺 (大阪)	四天王寺太子殿前庭	経供養 舞楽 四天王寺 (大阪)	四天王寺太子殿前庭
舞楽 振鉾 承和楽 貴徳 春庭花 長慶子			
問合せ 06-6771-0066	10月23日(火)午前10時より祭典中に	問合せ 06-6771-0066	10月23日(火)午前10時より祭典中に
三翁神社(厳島神社の近く)祭典(広島)	三翁神社(厳島神社の近く)祭典(広島)	三翁神社(厳島神社の近く)祭典(広島)	三翁神社(厳島神社の近く)祭典(広島)
舞楽 振鉾 春鶯囀 入破 地久			
演奏 天王寺樂所	演奏 天王寺樂所	演奏 天王寺樂所	演奏 天王寺樂所
問合せ 0829-44-2020	10月27日(土)午前11時	問合せ 0829-44-2020	10月27日(土)午前11時
明治神宮 舞楽 (東京)	明治神宮 舞楽 (東京)	明治神宮 舞楽 (東京)	明治神宮 舞楽 (東京)
舞楽 振鉾 春鶯囀 腫踏 入破 地久			
演奏 楽友会	演奏 楽友会	演奏 楽友会	演奏 楽友会
問合せ 03-3379-5511	10月27日(土)午後3時半 2000円	問合せ 03-3379-5511	10月27日(土)午後3時半 2000円
祈りのおとコンサート (大分)	(第33回国民文化祭・おおいた2018)	祈りのおとコンサート (大分)	(第33回国民文化祭・おおいた2018)
宇佐神宮 阿知女作法 五常樂急 舞楽 胡飲酒 長慶			
出演 伶楽舎	出演 伶楽舎	出演 伶楽舎	出演 伶楽舎
問合せ 0978-27-8174	10月28日(日)午後5時	問合せ 0978-27-8174	10月28日(日)午後5時
神明雅楽 (東京)	下神明天祖神社境内	神明雅楽 (東京)	下神明天祖神社境内

舞楽 振鉾 春庭花 抜頭 演奏 雅楽道友会	10月29日(月)午後7時 黄鐘調子ほか 真鍋尚之(笙)共演 豊	舞楽 振鉾 春庭花 抜頭 演奏 雅楽道友会	10月29日(月)午後7時 黄鐘調子ほか 真鍋尚之(笙)共演 豊
問合せ 03-3783-2371	全指定4千円 学生2500円	問合せ 03-3783-2371	全指定4千円 学生2500円
真鍋尚之笙リサイタル 超絶技巧 (東京)	10月29日(月)午後7時 ヤマハホール	真鍋尚之笙リサイタル 超絶技巧 (東京)	10月29日(月)午後7時 ヤマハホール
10月29日(月)午後7時 ヤマハホール	10月29日(月)午後7時 ヤマハホール	10月29日(月)午後7時 ヤマハホール	10月29日(月)午後7時 ヤマハホール
京都アスニー	11月1日(木)昼12時	京都アスニー	11月1日(木)昼12時
管絃 越天樂 邀請	管絃 越天樂 邀請	管絳 延喜樂 邀請	管絳 延喜樂 邀請
舞楽 白拍子 邀請	舞楽 白拍子 邀請	舞楽 邀請 (左舞)	舞楽 邀請 (左舞)
演奏 平安雅楽会	演奏 平安雅楽会	演奏 平安雅楽会	演奏 平安雅楽会
問合せ 075-812-7222	11月10日(土)、11日(日)両日共	問合せ 075-812-7222	11月10日(土)、11日(日)両日共
平安時代における「雅楽」の成立 (兵庫)	平安時代における「雅楽」の成立 (兵庫)	平安時代における「雅楽」の成立 (兵庫)	平安時代における「雅楽」の成立 (兵庫)
講師 小野真龍 天王寺舞楽協会常任理事	講師 小野真龍 天王寺舞楽協会常任理事	講師 小野真龍 天王寺舞楽協会常任理事	講師 小野真龍 天王寺舞楽協会常任理事
主催 芦屋市民センターハウス	主催 芦屋市民センターハウス	主催 芦屋市立公民館	主催 芦屋市立公民館
問合せ 0797-35-0700	11月2日(金)午前10時 無料	問合せ 0797-35-0700	11月2日(金)午前10時 無料
京都御所一般公開舞楽	京都御所一般公開舞楽	京都御所一般公開舞楽	京都御所一般公開舞楽
演奏 芦屋市民センターハウス	演奏 芦屋市民センターハウス	演奏 芦屋市立公民館	演奏 芦屋市立公民館
問合せ 0594-48-3484	11月10日(土)午後2時	問合せ 0594-48-3484	11月10日(土)午後2時
「陵王」を巡る 地方への伝承 国立劇場	「陵王」を巡る 地方への伝承 国立劇場	「陵王」を巡る 地方への伝承 国立劇場	「陵王」を巡る 地方への伝承 国立劇場
チケットプレゼント有り	チケットプレゼント有り	チケットプレゼント有り	チケットプレゼント有り
舞楽 胡蝶 蘭陵王(予定)	舞楽 胡蝶 蘭陵王(予定)	舞楽 胡蝶 蘭陵王(予定)	舞楽 胡蝶 蘭陵王(予定)
問合せ 0797-35-0700	11月10日(土)午後2時	問合せ 0797-35-0700	11月10日(土)午後2時
全席指定 4000円 学生2800円	全席指定 4000円 学生2800円	全席指定 4000円 学生2800円	全席指定 4000円 学生2800円
国際劇場 小劇場	国際劇場 小劇場	国際劇場 小劇場	国際劇場 小劇場
◎「陵王」出演 小野雅菜会(東京都)	◎「陵王」出演 小野雅菜会(東京都)	◎「陵王」出演 小野雅菜会(東京都)	◎「陵王」出演 小野雅菜会(東京都)
○小滝のチヨウクライト舞	○小滝のチヨウクライト舞	○小滝のチヨウクライト舞	○小滝のチヨウクライト舞
〔国指定重要無形民俗文化財〕	〔国指定重要無形民俗文化財〕	〔国指定重要無形民俗文化財〕	〔国指定重要無形民俗文化財〕
「御宝頭の舞」「九舍の舞」「闇浮の舞」	「御宝頭の舞」「九舍の舞」「闇浮の舞」	「御宝頭の舞」「九舍の舞」「闇浮の舞」	「御宝頭の舞」「九舍の舞」「闇浮の舞」
演出 烏海山小滝舞楽保存会(秋田県にかほ市)	演出 烏海山小滝舞楽保存会(秋田県にかほ市)	演出 烏海山小滝舞楽保存会(秋田県にかほ市)	演出 烏海山小滝舞楽保存会(秋田県にかほ市)
問合せ 0742-22-7788	11月17日(土)午後2時	問合せ 0742-22-7788	11月17日(土)午後2時
稻沢市制60周年協賛雅楽演奏会 (愛知)	稻沢市制60周年協賛雅楽演奏会 (愛知)	稻沢市制60周年協賛雅楽演奏会 (愛知)	稻沢市制60周年協賛雅楽演奏会 (愛知)
名古屋文理大学文化フオーラム	名古屋文理大学文化フオーラム	名古屋文理大学文化フオーラム	名古屋文理大学文化フオーラム
管絃 双調音取 武德楽 鳴鳥急	管絃 双調音取 武德楽 鳴鳥急	管絃 双調音取 武德楽 鳴鳥急	管絃 双調音取 武德楽 鳴鳥急
舞楽 蘇莫者 落蹲 太食調音取 長慶子	舞楽 蘇莫者 落蹲 太食調音取 長慶子	舞楽 蘇莫者 落蹲 太食調音取 長慶子	舞楽 蘇莫者 落蹲 太食調音取 長慶子
演奏 稲沢雅楽会	演奏 稲沢雅楽会	演奏 稲沢雅楽会	演奏 稲沢雅楽会
問合せ 090-1280-4949	11月18日(日)午後2時	問合せ 090-1280-4949	11月18日(日)午後2時
世界最古のオーケストラ雅楽 (愛知)	世界最古のオーケストラ雅楽 (愛知)	世界最古のオーケストラ雅楽 (愛知)	世界最古のオーケストラ雅楽 (愛知)
11月18日(日)午後2時 一般3千円 学生1千円	11月18日(日)午後2時 一般3千円 学生1千円	11月18日(日)午後2時 一般3千円 学生1千円	11月18日(日)午後2時 一般3千円 学生1千円
正行寺雅楽御堂 報恩講法要 (福岡)	正行寺雅楽御堂 報恩講法要 (福岡)	正行寺雅楽御堂 報恩講法要 (福岡)	正行寺雅楽御堂 報恩講法要 (福岡)
11月7日(水)午前9時半	11月7日(水)午前9時半	11月7日(水)午前9時半	11月7日(水)午前9時半
大曼荼羅供 中日法会	大曼荼羅供 中日法会	大曼荼羅供 中日法会	大曼荼羅供 中日法会
舞楽 振鉾 迦陵頻 萬歳樂 落蹲	舞楽 振鉾 迦陵頻 萬歳樂 落蹲	舞楽 振鉾 迦陵頻 萬歳樂 落蹲	舞楽 振鉾 迦陵頻 萬歳樂 落蹲
演奏 平安雅楽会	演奏 平安雅楽会	演奏 平安雅楽会	演奏 平安雅楽会
問合せ 092-596-8585	11月17日(土)午前11時	問合せ 092-596-8585	11月17日(土)午前11時
京都市東部文化会館 雅楽鑑賞会 (京都)	京都市東部文化会館 雅楽鑑賞会 (京都)	京都市東部文化会館 雅楽鑑賞会 (京都)	京都市東部文化会館 雅楽鑑賞会 (京都)
管絃 越殿樂 邀請	管絳 越殿樂 邀請	管絳 越殿樂 邀請	管絳 越殿樂 邀請
舞楽 青海波 延喜樂 胡蝶	舞楽 青海波 延喜樂 胡蝶	舞楽 青海波 延喜樂 胡蝶	舞楽 青海波 延喜樂 胡蝶
演奏 平安雅楽会	演奏 平安雅楽会	演奏 平安雅楽会	演奏 平安雅楽会
問合せ 092-596-8585	11月17日(土)午後3時	問合せ 092-596-8585	11月17日(土)午後3時
春日山	春日山	春日山	春日山
舞楽 陵王 演奏 築紫樂所	舞楽 陵王 演奏 築紫樂所	舞楽 陵王 演奏 築紫樂所	舞楽 陵王 演奏 築紫樂所
問合せ 0570-07-9900	各保存会代表者	問合せ 0570-07-9900	各保存会代表者

問合せ 0570-07-9900	各保存会代表者
正行寺雅楽御堂 報恩講法要 (福岡)	正行寺雅楽御堂 報恩講法要 (福岡)
11月10日(土)午後3時 春日山	11月10日(土)午後3時 春日山
舞楽 陵王 演奏 築紫樂所	舞楽 陵王 演奏 築紫樂所
問合せ 092-596-8585	11月17日(土)午前11時
京都市東部文化会館 雅楽鑑賞会 (京都)	京都市東部文化会館 雅楽鑑賞会 (京都)
管絳 越殿樂 邀請	管絳 越殿樂 邀請
舞楽 青海波 延喜樂 胡蝶	舞楽 青海波 延喜樂 胡蝶
演奏 平安雅楽会	演奏 平安雅楽会
問合せ 092-596-8585	11月17日(土)午後3時
春日山	春日山
舞楽 陵王 演奏 築紫樂所	舞楽 陵王 演奏 築紫樂所
問合せ 090-1280-4949	11月18日(日)午後2時
世界最古のオーケストラ雅楽 (愛知)	世界最古のオーケストラ雅楽 (愛知)
11月18日(日)午後2時 一般3千円 学生1千円	11月18日(日)午後2時 一般3千円 学生1千円
越殿樂残樂三返他	越殿樂残樂三返他
客演 豊英秋師	客演 豊英秋師

主催 演奏 主韻会 問合せ Tel 052-262-2580 雅楽な調べに平安を語る (愛知)	主催 やつとかめ文化祭実行委員会 問合せ Tel 052-262-2580 舞楽 貴徳急他
11月20日 (火) 午後2時・4時 2回公演 熱田文化小劇場 3千円	11月20日 (火) 午後2時・4時 2回公演 雅楽演奏他 客演 豊英秋師
舞楽 幸徳急他	舞楽 幸徳急他
演奏 平安装束楓の会 企画 アユチ雅楽会	演奏 平安装束楓の会 企画 アユチ雅楽会
主催 ライオンズクラブ 問合せ Tel 052-979-2677	主催 ライオンズクラブ 問合せ Tel 052-979-2677
久米舞 檜原神宮 (奈良) 11月23日 (金・祝) 午前11時 久米舞 祭典の中で	久米舞 檜原神宮 (奈良) 11月23日 (金・祝) 午前11時 久米舞 祭典の中で
問合せ Tel 0744-22-3271	問合せ Tel 0744-22-3271
錦天満宮 秋季大祭 (京都)	錦天満宮 秋季大祭 (京都)
舞楽 落蹲 蘭陵王 演奏 平安雅楽会 11月25日 (日) 午後2時 舞楽 落蹲 蘭陵王 演奏 平安雅楽会 11月25日 (日) 午後2時	舞楽 落蹲 蘭陵王 演奏 平安雅楽会 11月25日 (日) 午後2時 舞楽 落蹲 蘭陵王 演奏 平安雅楽会 11月25日 (日) 午後2時
問合せ Tel 075-871-1972	問合せ Tel 075-871-1972
神明雅楽 (東京) 11月25日 (日) 午後5時 下神明天祖神社境内 舞楽 振鉾 登殿樂 散手 演奏 雅楽道友会	神明雅楽 (東京) 11月25日 (日) 午後5時 下神明天祖神社境内 舞楽 振鉾 登殿樂 散手 演奏 雅楽道友会
問合せ Tel 03-3783-2371	問合せ Tel 03-3783-2371
11月26日 (月) 午後6時半 4000円 フェスティバルホール 第一部 管絃祭 平調音取 太食調音取 抜頭 (夜多羅拍子)	11月26日 (月) 午後6時半 4000円 鶴見邦楽連盟 邦楽のつどい (神奈川) 海神への供物II (大阪) 問合せ Tel 03-3783-2371 （厳島神社と天王寺楽所）
管絃舞樂 蘇利古 第二部 奉納舞樂 修祓 振鉾 (合鉾) 萬歳樂 祭式行事作法 蘭陵王	管絃舞樂 蘇利古 第二部 奉納舞樂 修祓 振鉾 (合鉾) 萬歳樂 祭式行事作法 蘭陵王
12月27日 (火) 午後1時半 無料 京都府総合教育センター 雅楽の歴史 特徴 楽器の紹介 雅楽の演奏 出演 平安雅楽会	12月27日 (火) 午後1時半 無料 京都府総合教育センター 雅楽の歴史 特徴 楽器の紹介 雅楽の演奏 出演 平安雅楽会
問合せ Tel 0766-64-0390	問合せ Tel 0766-64-0390
第22回神奈川雅楽部演奏会 (神奈川)	第22回神奈川雅楽部演奏会 (神奈川)
チケットプレゼント有り 12月1日 (土) 午後4時半 京都劇場 前売3000円、当日3500円 管絃 盤渉参軍 (序一帖 四帖 破五帖 急 参軍頌) 雅楽アラカルト 舞楽 打毬樂 延喜樂 問合せ Tel 090-6961-6765	チケットプレゼント有り 12月1日 (土) 午後4時半 京都劇場 前売3000円、当日3500円 管絃 盤渉参軍 (序一帖 四帖 破五帖 急 参軍頌) 雅楽アラカルト 舞楽 打毬樂 延喜樂 問合せ Tel 090-6961-6765
12月16日 (日) 午前10時 御鎮座記念祭 鶴岡八幡宮 人長の舞 (神奈川)	12月16日 (日) 午前10時 御鎮座記念祭 鶴岡八幡宮 人長の舞 (神奈川)
問合せ Tel 0594-48-3484	問合せ Tel 0594-48-3484
12月2日 (日) 午前11時半、午後1時半 小石川後楽園 (入園料必要) 演奏 多忠輝	12月2日 (日) 午前11時半、午後1時半 小石川後楽園 (入園料必要) 演奏 多忠輝
問合せ Tel 03-3560-3010	問合せ Tel 03-3560-3010
第55回伝承雅楽会公演 (東京)	第55回伝承雅楽会公演 (東京)
チケットプレゼント有り 12月8日 (土) 午後2時 全指定5000円 サントリーホール ブルーローズ 問合せ Tel 03-3560-3010	チケットプレゼント有り 12月8日 (土) 午後2時 全指定5000円 サントリーホール ブルーローズ 問合せ Tel 03-3560-3010
12月9日 (日) 午後1時 無料 立正佼成会法輪閣大ホール 舞楽 落蹲 萬歳樂 嘉祥萬寿樂 作曲 指揮 芝祐靖 作舞 多忠輝 合唱 佼成合唱団 問合せ Tel 03-5341-1148	12月9日 (日) 午後1時 無料 立正佼成会法輪閣大ホール 舞楽 落蹲 萬歳樂 嘉祥萬寿樂 作曲 指揮 芝祐靖 作舞 多忠輝 合唱 佼成合唱団 問合せ Tel 03-5341-1148
12月22日 (土) 午後4時 御神樂 人長 早韓神 演奏 平安雅楽会 問合せ Tel 075-871-1972	12月22日 (土) 午後4時 御神樂 人長 早韓神 演奏 平安雅楽会 問合せ Tel 075-871-1972
春日大社 若宮おん祭 お旅所祭 (奈良) 問合せ Tel 03-3783-2371	春日大社 若宮おん祭 お旅所祭 (奈良) 問合せ Tel 03-3783-2371
12月17日 (月) 夕方より 舞楽 東遊 振鉾 萬歳樂 延喜樂 長保樂 和舞 蘭陵王 納曾利 散手 貴徳 拔頭 落蹲ほか 演奏 南都樂所 問合せ Tel 045-931-1714	12月17日 (月) 夕方より 舞楽 東遊 振鉾 萬歳樂 延喜樂 長保樂 和舞 蘭陵王 納曾利 散手 貴徳 拔頭 落蹲ほか 演奏 南都樂所 問合せ Tel 045-931-1714
12月23日 (日) 午前5時の天長祭に統いて 舞楽 振鉾 萬歳樂 延喜樂 蘭陵王 御神樂 天長祭 (広島) 問合せ Tel 0829-44-2020	12月23日 (日) 午前5時の天長祭に統いて 舞楽 振鉾 萬歳樂 延喜樂 蘭陵王 御神樂 天長祭 (広島) 問合せ Tel 0829-44-2020
1月1日 (火) 午前5時 歳旦祭 振鉾 1月5日 (土) 午前5時半より地久祭の祭典 後 舞樂 甘州 林歌 拔頭 還城樂 演奏 嶺島神社 問合せ Tel 0829-44-2020	1月1日 (火) 午前5時 歳旦祭 振鉾 1月5日 (土) 午前5時半より地久祭の祭典 後 舞樂 甘州 林歌 拔頭 還城樂 演奏 嶺島神社 問合せ Tel 0829-44-2020
A3千円 B2千円 紀尾井ホール 黄鐘調調子 芝祐靖復曲 清上樂 問合せ Tel 046-841-0383	A3千円 B2千円 紀尾井ホール 黄鐘調調子 芝祐靖復曲 清上樂 問合せ Tel 046-841-0383
主催 神明雅楽 問合せ Tel 03-5269-2011 展示記念の雅楽 (富山)	主催 神明雅楽 問合せ Tel 03-5269-2011 展示記念の雅楽 (富山)
出演 天王寺楽所 嶺島神社神職 以和貴会	出演 天王寺楽所 嶺島神社神職 以和貴会
12月2日 (日) 午後1時半 無料 「雅楽の館」高岡市 (絵巻自体も雅楽の館で展示)	12月2日 (日) 午後1時半 無料 「雅楽の館」高岡市 (絵巻自体も雅楽の館で展示)
管絃 蘭陵王 陪膳 舞楽 納曾利 洋遊会	管絃 蘭陵王 陪膳 舞楽 納曾利 洋遊会
12月16日 (日) 午後5時 下神明天祖神社境内 御神楽 (予定) 演奏 雅楽道友会	12月16日 (日) 午後5時 下神明天祖神社境内 御神楽 (予定) 演奏 雅楽道友会
問合せ Tel 03-3783-2371	問合せ Tel 03-3783-2371
舞楽 右方還城樂 一柳慧作曲 二十四節氣 演出 伶樂舍	舞楽 右方還城樂 一柳慧作曲 二十四節氣 演出 伶樂舍

二日祭 1月2日(水) 午後1時 舞樂 万歳樂 延喜樂	元始祭 1月3日(木) 午後1時 舞樂 太平樂 狐桺 胡德樂 蘭陵王 納曾利 長慶子 演奏 天王寺樂所
上賀茂神社 新年竟宴祭 (京都) 舞樂 還城樂(予定) 演奏 平安雅樂会	1月5日 (土) 午後4時半 春日大社 舞樂始式 (奈良) (奈良)
1月14日 (月) 午後1時 林檎の庭 舞樂 壱越調 叡陵頻	1月14日 (月) 午後1時 林檎の庭 舞樂 振鉾 萬歳樂 地久 長慶子 問合せ Tel 0742-22-7788
一般 1千円 学生 5百円 三重県文化会館中ホール 講師 野原耕二 演奏 笹 野津輝男 筆箋 高多祥司 横笛 笠井聖秀 主催 三重県文化会館	1月18日 (金) 午後2時 「雅樂はすごい!」 レクチャーコンサート (三重) (三重)
三重県生涯学習センター 問合せ Tel 059-233-1150 雅樂公演 (千葉) 1月19日 (土) 午後2時 料金未定 勝浦市芸術文化交流センター 管絃 越天樂 嘉辰 陪臚	1月18日 (金) 午後2時 一般 1千円 学生 5百円 三重県文化会館中ホール 講師 野原耕二 演奏 笹 野津輝男 筆箋 高多祥司 横笛 笠井聖秀 主催 三重県文化会館

★★読者チケットプレゼント★★	
☆国立劇場 陵王を巡る 11月10日	☆音輪会 12月1日 京都劇場 5名様ご招待
☆国立劇場小劇場 2名様ご招待	11月17日必着 招待券を送付
10月27日必着 招待券を送付	☆音輪会 12月1日 京都劇場 5名様ご招待
11月17日必着 招待券を送付	☆宮田まゆみりサイタル 12月5日 ☆神奈川雅樂部 みどりアートパーク 10名様ご招待
11月21日必着 招待券を送付	12月8日 サントリー・ホルブルーローズ 1名様 ご招待 11月24日必着 招待券を送付
1月26日 (土) 午後3時 新春雅樂公演 (東京) 深川江戸資料館 (2千円) 演目 遷陵頻 胡蝶ほか 演奏 多度雅樂会 問合せ Tel 0594-48-3484	1月26日 (土) 午後3時 新春雅樂公演 (東京) 深川江戸資料館 (2千円) 演目 遷陵頻 胡蝶ほか 演奏 多度雅樂会 問合せ Tel 0594-48-3484

○宮内庁樂部 パリ、ストラスブールで公演
日本・フランス友好160周年を記念し、
ジャボニヌム2018で日本文化の紹介の一環として宮内庁樂部は、9月3日パリ、9月6日ストラスブールで雅樂の公演を開催した。
管絃 平調音取 催馬樂 伊勢海 越殿
樂 陪臚 舞樂 萬歳樂 陵王 納曾利
パリ公演映像

雅音会 第13回定期演奏会 1月27日 (日) 午後3時半 無料 名古屋市瑞穂文化小劇場 管弦 壱越調 胡飲酒破 催馬樂 櫻人 舞樂 振鉾三節 散手 貴徳 長慶子 問合せ Tel 052-741-6363

https://live.philharmoniedeparis.fr/concert/1085288/gagaku-imperial.html	「雅樂だより」 購読料 1年(4回発行)=1千円。(送料込) 郵便振込用紙に住所、氏名をご記入のうえ、 【口座番号】 00140-5-614032 【加入者名】 雅樂協議会 までお振込みください。ご記入頂いた住所に 「雅樂だより」を送らせて頂きます。
「雅樂だより」 第55号 2018(平成30)年10月1日 発行 雅樂協議会 編集 「雅樂だより」編集担当 連絡先 Tel 03-5222-3531 FAX 042-451-8898 メール gagakudayori@yahoo.co.jp http://www.gagaku-kyonikai.com/	5日より販売します」 とのことです。 「雅樂だより」 購読・継続 申し込み方法 購読料 1年(4回発行)=1千円。(送料込) 郵便振込用紙に住所、氏名をご記入のうえ、 【口座番号】 00140-5-614032 【加入者名】 雅樂協議会 までお振込みください。ご記入頂いた住所に 「雅樂だより」を送らせて頂きました。 台風・地震での被災、心よりお見舞い申し上げます。 話は変わりまして、読者の方から「鈴木さんが笙の職人とは知りませんでした。日晚新聞に掲載されていましたね。知らない人は多いですよ」と連絡いただきました。私事で恐縮ですが5月24日の日本経済新聞の文化欄に9月9日は文化放送で浜美枝さんとの対談が昨年7月7日は東京新聞で、テレビの和風総本家でも笙職人として紹介いただきました。 「雅樂だより」 第55号 2018(平成30)年10月1日 発行 雅樂協議会 編集 「雅樂だより」編集担当 連絡先 Tel 03-5222-3531 FAX 042-451-8898 メール gagakudayori@yahoo.co.jp http://www.gagaku-kyonikai.com/

雅樂の楽器・譜面 ほか （株）武藏野楽器
〒114-0003 東京都北区豊島1-5-6 電話 03-5902-7281 Fax 03-5902-7282

「雅樂だより」 第55号
2018(平成30)年10月1日 発行 雅樂協議会
編集 「雅樂だより」編集担当
連絡先 Tel 03-5222-3531
FAX 042-451-8898
メール gagakudayori@yahoo.co.jp
http://www.gagaku-kyonikai.com/